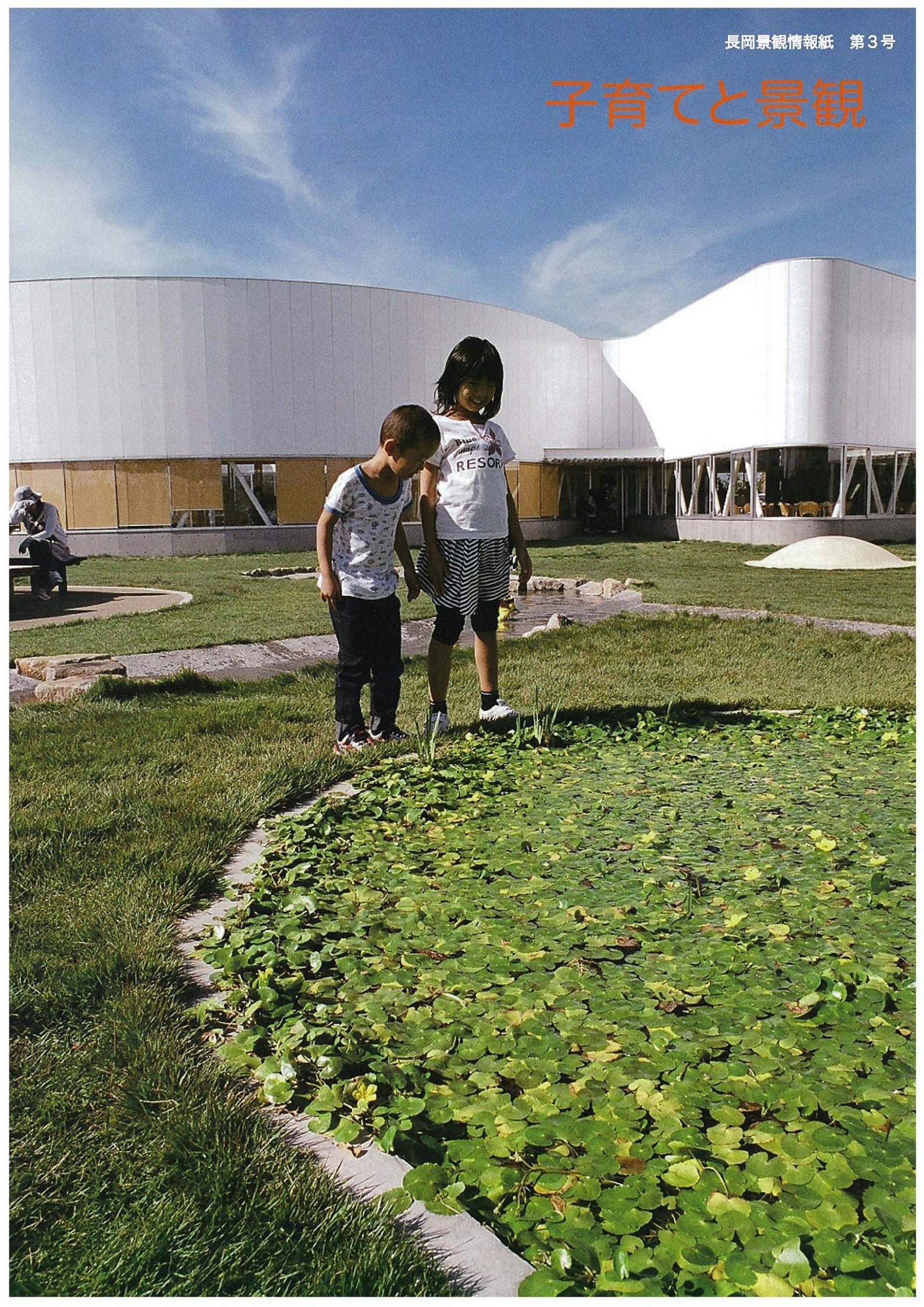


# 子育てと景観





与板河川緑地  
たちばな河川公園@与板  
さわやかな青空と春風。  
毎年5月いっぱい、元氣よく  
泳ぐこいのぼりを見ること  
ができるんですよ。



少年教室@和島  
土の音が聞こえるよ。  
水の音が聞こえるよ。  
少年教室で、診察を地面  
や樹木にあてる子どもたち  
は、興味津々。



登校風景@小国  
うららかな春の日和ですね。  
田植えの終わった田んぼを  
見ながら、元氣に登校中。  
「ほら、あそでオタマジャク  
シが泳いでるよ!」



アルパカ牧場@山古志  
キュートで大きな目!  
一度でも見たらひとめぼれす  
るんだって。冬は牛舎にいら  
るので会えないけど、雪どけを  
待つて見に行こうよ。



中之島中央小学校裏の  
田んぼ@中之島  
どろんこ祭りは中之島だけ。  
それも真夏の暑い7月中旬  
に行われるんですって。泥だ  
らけて気持ちいい!



川口やな場@川口  
「おさかな、いた〜!」  
キレイな魚野川で大自然を  
まるごと手つかみ。日本有数の  
歴史と規模の「やな場」で  
す。「アユ、食べてみた?」



金山海水浴場@寺泊  
透明な海。  
波うちぎわで思わず足がとまる  
親子連れ。潮風が心地よさ  
そう。シーサイドラインのドラ  
イフがてらに。



バードウォッチング  
@長岡  
かれんな山野草がたくさん。  
バードウォッチングの中学生  
生たちは環境を学んでいます。  
夏は、せせらぎ治いにホ  
タルがたくさん出ます。



越路河川公園@越路  
天気の良い日曜日。  
イクメンの日の出番です。い  
ずれ、自転車の練習も。広い  
公園には釣りができる池も、  
野球場もあるんです。



越後みしま竹あかり街道  
(協野町本町通り)@三島  
「みつけた!」  
「えっ、何見つけたの?」  
「ほら、わらっているのが  
あるでしょ。」



とちおファミリー  
スキー場@栃尾  
1月1日、親子初滑り。  
ふかふかの新雪だけど、やっ  
てみた。「ママ、手、離してみて。  
一人できるから。」「ホント  
に大丈夫?」「へいきだよ」



そら



やま



かわとうみ



5月5日 こどもの日の山古志闘牛場 牛と子どもたちとブナ林

1	2	3
4	5	
6	7	8

- 川口 中山コスモスまつりで
- 長岡 長岡ニュータウン芝生公園で
- 与板 稲刈り!
- 長岡 雪国植物園で
- 和島 道の駅「良寛の里わしま」遊歩道で
- 川口 魚野川で魚つかみ
- 和島 日本海へ通じる落水の坂道で
- 寺泊 寺泊港でシーカヤック



長岡造形大学学長 上山良子

「景観」は、約150年あまりの新しい概念です。私の専門である「ランドスケープ・アーキテクト」とは、「土地の資源をきちんと評価し、社会の要求に応じて計画、設計する者」と定義されます。たとえば、美しい里山の景観は、原生風景に人々が手を入れることによりできています。環境は、なんらかの目的によりデザインされていきます。人々と自然が美しく折り合う景観は、ゆっくりと形成され、ながく持続していきます。

このプロセスの発端において、私たちは、地域や土地がもつたくさんの「記憶」の層をほりおこし、その価値をいつくしむ作業から始めなければなりません。作業の下地にあるのは、「公共に対する意識」です。美しい景観を維持していくためには、みなで共有する場を大切に思う気持ちが必要です。その意識を、人それぞれが正しく持つために、子育てにおいては、「環境教育」が求められます。「子育てと景観」、本質的な関係であると思います。



photo by Eriko.T\_米百俵まつり@長岡駅前大手通り

高森えり子\_担当/寺泊、与板、中之島

生まれてからずっと「中之島地域」から出たことのない私です。今回いろいろな地域を訪ね、写真を撮影する中で、他の地域をたくさん知ることができ、たくさんの人と出会うことができました。長岡には、すてきな所がたくさんあります。

みなさんも、この情報紙をきっかけに出かけてみませんか。



photo by Kanae.N\_新潟県立近代美術館@長岡

南雲香苗\_担当/越路、長岡

「子育て」と「景観」、初めは結びつかないように感じましたが、編集会議を重ねていくうちに、この視点もあることに気づきました。また、秋から冬のときに子どものいる風景写真を撮る難しさはありましたが、これだと思う写真を選択しました。「景観情報紙」が、自分のまちの新たな発見につながればと思います。



photo by Takac.F\_もみじ園@越路

福嶋隆男\_担当/和島、小国、三島

取材で子育ての様相が変化していることに気がつきました。昔はゆっくりした時間と空間でのんびり育てられていました。今、大人が時間と労力を注ぎ積極的に関わっている状況が生まれています。親は真剣に子育てに向き合い、行政も地域も全力で支援体制を整えています。長い間継承された遊び文化が失われてきた面もありますが、新しい「子育て社会」が生まれてきたことを実感しました。長岡の景観の中で育つ子どもの姿から、その様相を感じていただけたらと思います。



photo by Mariko.Y\_子育ての駅千秋「てくてく」@長岡

山下真理子\_担当/栃尾、山古志、川口

景観が美しいと感じる一番の要素、それは躍動感にあふれる「命」なのではないでしょうか。「そら」「やま」「かわとうみ」を見て、植物や動物の生命がいっぱいある景観は、とても魅力的です。さらに加えて、歴史、文化、経済のエネルギーも、実は景観をつくっています。私たちは目に見える表側にとられがちですが、物事を支えている裏側を洞察しなければなりません。「なんでキレイなんだろう」「なんで気持ちいいんだろう」、それを深く洞察するためにも、親と子が外に出て一緒に活動することが絶対に必要であると感じました。

長岡市都市計画課

きれいな風景、歴史あるまちなみなど、たくさんのイメージが思い浮かぶ「景観」。「ちびっこひろば」「てくてく」「ぐんぐん」に代表される、長岡市の子育て支援。「景観」と「子育て」…、関連しないこの二つのキーワードを結びつけると、どのような「景観情報紙」ができあがるのか？ そんな挑戦的な思いのもと、本紙が完成しました。親子で遊び、探検する風景、子ども達が無邪気に遊ぶ風景など、これもまた、一つの「景観」です。みなさんも本紙を手に取り、子ども達の笑顔を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

長岡景観情報紙	平成23年3月発行
発行	長岡市都市計画課
編集	高森えり子、南雲香苗、福嶋隆男、山下真理子（レイアウト）
協力	柿崎洸哉（長岡造形大学）
表紙	長岡市子育ての駅千秋「てくてく」